

30年度 香川県死因究明等推進協議会

## 香川県医師会警察医会の現状

会長 飛梅 董

**歴史** 香川県医師会警察医会（以下医会という）は平成**27年3月**に結成されました。

これに先立ち、岩手県雫石町の自衛隊機衝突事故（S46.7.30）、大洋デパート火災（S48.11.29）日航ジャンボ機墜落事故（S60.8.12）などの大事故がありました。多数の死傷者の発生を伴う混乱の中でスムーズに検視・検案を行うことができるように、また、肢体検案技術の向上を目指して昭和61年に香川大学法医学の初代教授の垣成先生のご指導により香川県警察医会が結成されました。発足当時では会員は医師と警察のみでしたが、その後歯科医師が加わり全国的に見ても先進的な活動を続けておりました。

平成**23年3月**の東北大震災時の医療活動に際して全国的な組織化の必要性が求められた結果、日本医師会内に警察に協力して活動する組織が結成されることになりました。

それを機会として、従来の香川県警察医会を発展的に解消して、香川県医師会内に警察活動に協力する医師の会として香川県医師会警察医会が設立されました。

**会員**は従来の警察医会の会員を中心として組織され、約40名の会員がいます。診療科は内科が45%、外科が25%、その他脳外科、整形外科、脳外科、泌尿科、産婦人科、小児科などです。7割が開業医です。参加資格は特にありませんが、日本法医学会の死体検案認定医が会長を含めて2名いますが、解剖はできません。

役員は郡市医師会代表、香川大学法医学教室及び香川県警察本部から構成されており、歯科医師会とは別途協力体制をとっています。

**活動**としては所轄警察署により依頼された死体の検案を行っています。また留置場の健診も行っています。

検案は会員以外のかかりつけ医や救急搬送を受けた施設の医師が行う場合もあります。

検案実施後に交付する検案料は検案医が個別に設定しており、統一された価格はありません。

**研修** 医会は研修会を毎年開催しています。また、各郡市医師会でも随時検案研修会を開催しています。

また個人的な研修として、日本医師会が毎年開催している死体検案研修会に参加する機会があります。

**災害時の対応** 各郡市医師会が主体となって検案班を編成して発災地での検案に従事する予定です。

**問題点** 香川県では検案の場合は所轄警察署による口頭での依頼を受けて業務を遂行しております。つまり身分が明らかにされておられません。大規模災害時には検案医の不足が問題視されております。この問題が明確化されなければ、若い医師は検案に参加しづらいのではないかと考えられます。